

徒然草『序段（つれづれなるままに）』定期テスト対策問題 | 現代語訳・係り結び・
文学史の頻出設問と解答

組 番 氏名

/100点

本文

つれづれなるままに、日暮らし、硯〔①〕に向かひて、心にうつりゆく〔②〕よしなしごと〔③〕を、そこはかとなく〔④〕書きつくれば、あやうこそものぐるほしけれ〔⑤〕。

設問

1. 「つれづれなるままに」を、「つれづれ」の意味がはっきりわかるように現代語訳しなさい。
2. 冒頭の「つれづれなる」（つれづれ）とは、ここではどのような状態・気持ちを表すか。簡潔に説明しなさい。
3. 「つれづれなる」の品詞と基本形（終止形）、活用形を答えなさい。
4. 「つれづれなるままに」の「に」は、どのようなはたらきの語ですか。意味（～のに任せて／～のままに）がわかるように説明しなさい。
5. 「日暮らし、硯に向かひて」を現代語訳しなさい。
6. 「日暮らし」の意味を答えなさい。
7. 傍線部①「硯」の読み方をひらがなで答えなさい。
8. 「心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくれば」を現代語訳しなさい。
9. 傍線部②「うつりゆく」はここではどういう意味か答えなさい。また、これを品詞分解しなさい（どこで区切れ、それぞれ何かを答える）。
10. 傍線部③「よしなしごと」の意味を答えなさい。また、「よしなし」がどのような成り立ち（語構成）の語かを説明しなさい。
11. 傍線部④「そこはかとなく」の意味を答えなさい。
12. 「書きつくれば」の「ば」は、何の形に接続し、どのような意味（条件）を表していますか。文法的に説明しなさい。
13. 傍線部⑤「あやうこそものぐるほしけれ」を現代語訳しなさい。
14. 傍線部⑤について、この一文に用いられている係り結びを、係助詞と結びの語の関係がわかるように説明しなさい。
15. 傍線部⑤の「ものぐるほしけれ」を品詞分解し、結びの語の活用の種類と活用形を答えなさい。
16. 傍線部⑤の「ものぐるほし」の意味を答えなさい。
17. 傍線部⑤の「あやう」は、もとはどのような形が変化したものですか。変化の名前（音便の種類）と、ここでの意味を答えなさい。

18. 本文全体を現代語訳しなさい。
19. この序段で、作者はどのような状況で、何をしていると述べていますか。本文に即してわかりやすく説明しなさい。
20. この作品の書名「徒然草」は、どこから付けられた名と考えられるか。本文の言葉に触れて説明しなさい。
21. 【文学史】『徒然草』の作者名と、作品のジャンル（文学の種類）を答えなさい。また、「随筆」とはどのような文章のことかを簡潔に説明しなさい。
22. 【文学史】『徒然草』が成立したとされる時代を答えなさい。また、清少納言『枕草子』・鴨長明『方丈記』と本作を合わせて何と総称するかを答えなさい。